

令和2年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料



GREENable

活動におけるテーマ・キャッチコピー

真庭ライフスタイルの実現
GREENableブランドの構築

活動団体名：岡山県真庭市

活動地域：真庭市全域

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

真庭版 地域循環共生圏

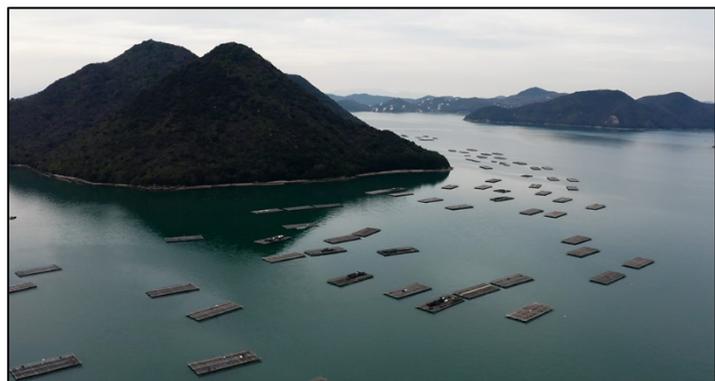
～真庭ライフスタイルの実現～



本取組以前から地域資源を活用・多様な取り組みを実施

今年度：個々の取組みを同じストーリーで発信する試み

A. 里海米の事例：昨年度ブランディングを実施



瀬戸内海とのつながり



真庭里海米（R1年版）



真庭里海米（R2年版）

■今年度：新たな商品化が実現し、岡山コープで販売

- ・ 森里川海のとつながりの恵みを引き出すプロジェクト（流域連携）
- ・ 真庭市における環境目線でのブランディングの先駆け的存在に。
- ・ プロダクトアウトではなく、マーケットインの考え方
- ・ **環境と経済と社会の同時解決 = 持続可能な地域づくり**

B. 山焼き・草原生態系保全・茅の活用

昨年度：有識者派遣による現地視察



春の山焼き



夏の草原保全



秋の茅刈り

■今年度：新たな自然再生協議会の設立を検討

- ・ 蒜山の観光資源である草原景観と生物多様性保全を実現
- ・ 茅の活用も図り、草原に経済価値を持たせる試みを実施
- ・ さらに収穫した茅を湯原地域の文化財の修復に活用
- ・ **環境と経済と社会の同時解決 = 持続可能な地域づくり**

※2020年3月「蒜山振興計画」を策定

隈研吾 × 三菱地所 × 真庭市の「CLT 蒜山⇄晴海プロジェクト」が2019年より始動しており、2021年には東京の晴海から蒜山に移築され、新たな観光拠点として整備される。



目指す姿（=新会社の事業のゴール）

蒜山の自然と暮らしを生かした観光

「蒜山の豊かな自然や文化、歴史を体験し共感する。」
環境と観光が調和した観光地域づくりを進めることで、
先人から引き継がれてきた蒜山地域の
自然、文化、景観を次世代に引き継ぎ、
人と自然が共生する「共生社会」の実現をめざす。

真庭市蒜山地域振興計画基本構想より

環境を活かした地域価値を上げる事業がスタート

持続可能な地域づくりのためにブランディングを実施



GREENable

多様な取組みを行う中で“多くの人に理解・共感される”
形で取組みを発信する必要

“グリーンナブル”ブランドの創造

阪急百貨店と連携し、価値に共感する企業との連携を図る

地方と都市の連携による新たなブランド

蒜山高原
来訪者200万人/年
⇒4割が京阪神から



相互送客
(価値観の共有)

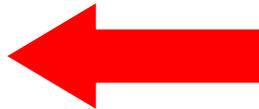


- ・バイオマス発電など環境取組の先進地
- ・自然環境保護・保全活動が多種活発
- ・自然を活かしたレジャーが豊富



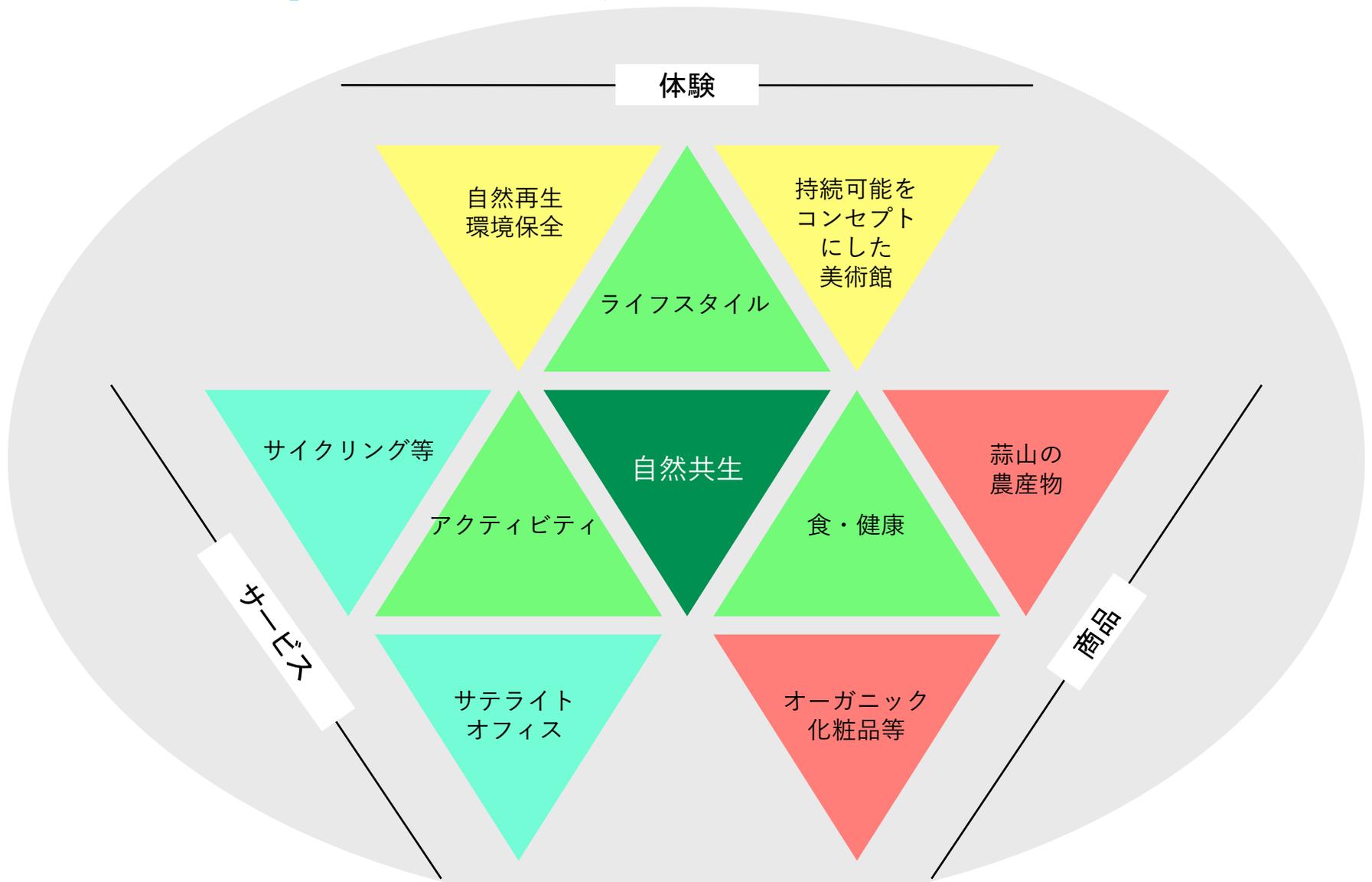
- ・顧客の環境に対する急速な価値観変化対応に苦慮
(CSRからCSVへの転換が後手)
- ・狭い店内では表現が難しい「自然共生」
- ・モノの陳列では表現できない自然のスケール感

- ・長引く観光業の苦戦
- ・人手不足で継続が危うい観光保全活動
- ・顧客年齢層をシニアから若返らせた



- ・市場での実戦経験で培った集客ノウハウ
- ・環境活動への参加に感心を持つ都市生活者急増
- ・ミレニアル「自然共生はファッションの要素」

ブランディングの考え方



阪急百貨店と協力し、価値に共感する企業との連携が実現

支援チーム派遣による成果

【成果①】地域の“サステナブル”を表現するブランディング戦略ができた



- ・ 蒜山地域に移築される隈研吾氏の建築作品を活かし、地域のサステナブルな取り組みを洗練性を持って発信するための仕組みづくりを実施
- ・ ブランディングおよび顧客層にリーチするコンセプトを検討
- ・ サービスおよび商品群について、ターゲットを分析し顧客層を設定

<https://greenable-hiruzen.co.jp/>

支援チーム派遣による成果

【成果②】多くの企業との対話・連携ができた

環境省／グッドライフアワード

「環境と社会に良い暮らし」の実現を目指し、環境省が提唱する地域循環共生圏の理念を具現化する取組を表彰するプロジェクト。



阪急阪神百貨店

2022年に阪急うめだ本店に、サステナブルフロアがOPEN。GREENable HIRUZENと連携



ECOALF／三陽商会

全てのアイテムを再生素材や環境負荷の低い天然素材のみで作っている、スペイン生まれのサステナブルファッションブランド

Johnbul／rebear by Johnbul

在庫商品を布にまで分解し、余った布などと組み合わせ新たなプロダクトを開発することで、在庫廃棄を減少させる取組み



FOOD TEXTILE／豊島

廃棄食材より染料を抽出し、衣類やバッグなどに用いることで、サステナブルなファッションを提案



yukimidori

真庭に多く植生する黒文字。間伐した黒文字から抽出したオイルを化粧水やアロマに展開する



美作ビアワークス

真庭のクラフトビール醸造所。蒜山産のオリジナルビールの開発を進める



一連携の考え方

国や企業との連携による真庭からの発信力の強化

一連携の考え方

真庭で取り組む循環型社会と親和性の高い、ゴミを資源にし、それらを活用した商品化を行う企業を選定

一連携の考え方

地元の農作物や自然資源を活用した商品開発を進める

今年度の取組を通じて得た気づきや課題

■ 気づき

- ・支援チーム派遣で適切な有識者を派遣していただいた。2年間同じ有識者にお世話になり、地域のことを深く知っていただいてアドバイスをいただけて良かった。
- ・有識者が主体的に動いてくださり、企業とのマッチングやアイデア出しなどで、実務に携わってくれた。
- ・間に入ってくださったコンサルさんが事務的なサポートをしてくれ、地域課題に専念することができた。

■ 課題

- ・適切な有識者に会えるかどうかは、地域側がニーズを明確に持つことが必要
- ・地域で動いているプロジェクトが（たまたま）あったため実装することができた。
⇒タイミングやどの事業について有識者支援が必要なのか把握する必要
- ・支援チーム派遣終了後に、どのようにして関わってくれた有識者と関係を持ち続けることができるか？ ⇒金の切れ目が縁の切れ目？
- ・事業終了後に、「次に何ができるか」予算措置も含めてサポートする体制が必要

今後の展望

物販だけでなく、体験メニュー、 生物多様性保全に人を誘導する仕組み

“GREENable HIRUZEN”ではモノの販売にとどまらず、各種アクティビティも活用し、自然の価値を人々が実感できる体制を目指す。

さらに、自然共生という価値に共感し、保全活動に参加するメニュー（草原や森の管理活動等）を構築する。

ただ楽しいだけではない、自分にも自然にも良いことができる場をつくり、地域循環共生圏の思想を広く発信できる地域を目指す。

① “GREENable HIRUZEN”への来訪



② 恩恵実感メニューへの参加 ⇒ 価値の共感を促す



③ 保全活動参加メニュー ⇒ 取組への参画を促す

